



学校体育功労賞を受賞して

元八代市立第六中学校 校長 杉田 明

このたび、栄えある平成30年度熊本県学校体育功労賞を賜りますとともに、盛大な祝賀会の一員として加えていただきましたことに心から感謝を申し上げます。また、これまで温かく御指導・御鞭撻をいただきました諸先輩・同僚の先生方、信頼して支えていただいた保護者の皆様・地域の方々、そして、付いてきてくれた子どもたちに心からお礼を申し上げます。

これまで、これといった顕著な成果を挙げた訳ではありませんが、学校体育功労者として選出していただいたということは、「今後、これまで以上に学校体育功労者にふさわしい生き方をしていきなさい」という戒めだと、自分なりに理解・納得し、気持ちを新たに引き締めているところです。

私は小学校教諭を6年経験した後、八代郡の氷川中学校体育教諭として、初めての中学校保健体育及び運動部活動に携わりました。何よりも心強かったのは、八代郡中体連、中体研による他校の諸先輩方とのつながりでした。様々な会議や飲み方の中で体育教師としての心構えや様々な指導方法や指導技術について時には優しく、時には厳しく御指導をいただきました。

私は、中学校体育教師として15年勤務しましたが、その間、運動部活動の指導も継続して行ってきました。諸先輩方の教えの中で「体育主任は、最後に残った運動部活動の顧問をなさい。」「教科指導に熱心な先生は、部活動の指導にも熱心である。」という言葉が特に印象に残っています。体育担当はどの運動部活動を顧問したとしても、自分の教科指導に役立ちます。しかし、体育以外の教科を担当している先生方は、自分が専門に経験した運動ならば良いが、専門外の種目を担当した場合、教科指導も含めて種目の指導法も研究しなければならず負担が大きくなります。体育以外の教科の先生方の立場を尊重した考え方で、とても感銘を受けました。体育人として大切な考え方だと思っています。それを目指して取り組んできましたが、先生方が遠慮されることもあり、実際には専門種目を担当することが多かったようです。ただ、気持ちの中には常にその考えを持っていたのは事実で、大きな指標になりました。

今後は、一指導者として子どもたちの心づくり、体力づくり、技術づくりのために、今自分ができることを継続していきたいと考えています。そして、「受賞者にふさわしい人間だった」と言われるような生き方をしていきたいと思っています。

最後になりましたが、熊本県中学校体育研究会並びに熊本県中学校体育連盟のますますの御発展と関係の皆様方の御健勝と御活躍を祈念申し上げますとともに、これまで御指導いただきました多くの先生方に心から感謝申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。ありがとうございました。